

卒業後・修了後3年次アンケート(平成28年度実施)集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、これまで卒業時・修了時に卒業生・修了生の皆様にアンケートを実施し、教育研究活動の自己点検・評価に役立ててきました(近年の集計結果はホームページ上で公開されています)。このたび、京都大学全体の方針に沿って、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などから、改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業後・修了後3年次アンケートを実施いたしましたので、その結果を公開いたします。ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、お礼申し上げます。

実施時期

平成28年8月1日～平成28年9月15日

実施方法

連絡先住所が判明する平成25年度卒業生(123名)・修了生(修士20名、博士3名)に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。卒業生の回答は15、回答率は12.2%、修士課程修了生の回答は2、回答率は約10%であった。博士課程修了生からの回答は0であったため、以下の集計結果には含めていない。

結果の概観

〈文学部卒業生〉

昨年度と同数の15名より回答を得た。Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」では、90%以上が「充分」または「それなりに」「満足している」と回答しており、文学部の教育に対する満足度の高さが窺われる。この結果は昨年度と大きく変わらず、例年卒業時に行っているアンケートの傾向とも共通する。

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立つ能力や資質について以下より選択してください」では、「一般的な教養や知識」「専門的な知識と技術」「外国語の能力」といった知識や技術に関する項目を選択した方が多い一方、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自学自習の姿勢」を選択した方も3割～半数近くになり、本学部の教育の特長がよく表れている。ただし、昨年度は80%以上が「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自学自習の姿勢」を回答していたのに比べると低下している。これは、昨年度とは回答の選択方法が異なることにも因ると思われるが、留意が必要である。

〈文学研究科修了生〉

回答者数は修士課程修了生2名で、昨年度より減少した。博士課程修了生からの回答は昨年と同じく0であり、回収率の向上は今後の課題である。

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では、2名とも「充分」または「それなりに」「満足している」と回答しており、文学研究科の教育に対する満足度の高さが窺われる。Q.03「文学研究科での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立つ能力や資質について以下より選択してください」では、2名とも選択したのが「自分で問題を発見し、解決を図る能力」と「自学自習の姿勢」である。本研究科の教育の特長がよく表れていると同時に、文学部卒業生より回答率が高いことから、学部教育との違いを特徴づけるものともいえるだろう。

	平成26年(2014)3月 に文学部を卒業	平成26年(2014)3月 に文学研究科修士課程を修了
対象者数	123	20
回答者数	15	2
回答率	12.2%	10%
Q.01 あなたが属していた系(専攻)を教えてください。	学部卒業生	修士課程修了生
哲学基礎文化学系(思想文化学専攻)	2 13.3%	0 0%
東洋文化学系(文献文化学専攻・東洋系)	1 6.7%	0 0%
西洋文化学系(文献文化学専攻・西洋系)	2 13.3%	0 0%
歴史基礎文化学系(歴史文化学専攻)	4 26.7%	0 0%
行動・環境文化学系(行動文化学専攻)	6 40.0%	1 50%
基礎現代文化学系(現代文化学専攻)	0 0.0%	1 50%
Q.02 あなたの現況について教えてください。	学部卒業生	修士課程修了生
社会人(一般企業等で就労)	8 53.3%	0 0%
社会人(官庁・地方自治体等で就労)	3 20.0%	0 0%
社会人(教員・司書等の専門職として就労)	3 20.0%	1 50%
社会人(非就労)	0 0.0%	0 0%
学生・院生(京都大学)	0 0.0%	1 50%
学生・院生(他の大学)	0 0.0%	0 0%
学生・院生(その他の学校)	0 0.0%	0 0%
その他	1 6.7%	0 0%
Q.03 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立つ能力や資質について以下より選択してください(複数選択可)。	学部卒業生	修士課程修了生
一般的な教養や知識	12 80.0%	1 50.0%
社会的な常識	2 13.3%	0 0.0%
専門的な知識と技術	6 40.0%	0 0.0%
専門分野の研究能力	4 26.7%	0 0.0%
国際感覚や国際性	4 26.7%	0 0.0%
外国語の能力	6 40.0%	0 0.0%
企画力や創造的思考力	3 20.0%	1 50.0%
実行力	1 6.7%	0 0.0%
協調性やチームワーク	2 13.3%	1 50.0%
コミュニケーション能力	2 13.3%	1 50.0%
リーダーシップ	0 0.0%	0 0.0%
自分で問題を発見し、解決を図る能力	5 33.3%	2 100.0%
自己管理能力	3 20.0%	0 0.0%
倫理観	0 0.0%	0 0.0%
自学自習の姿勢	7 46.7%	2 100.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%

Q.04 文学部(文学研究科)での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

平成26年(2014)3月に文学部を卒業した方の回答
 環境や素材は、日本では最高級のものを与える一方で、それを用いるか否か、どのように用いるか、は強要されず、個人の判断に任されていたところ。
 自主性に任せて研究に取り組みさせてくれるところ。
 外国語をはじめとする様々な教養を身につけられた点。
 自ら足を動かし、調査する姿勢が身についたところ。
 自分の知的好奇心を満たすためだけに、自由に学ぶことができた。
 ゼミを通じて、いろいろな価値観や着眼点、問題意識をもった先輩、同期と意見を交わすことができた。
 卒論を通じて、模範回答の存在しない「自分の考え」を探求することができた。
 豊富な蔵書を自由に閲覧できた。
 ひとつのことについて深く考える時間を得た。
 研究の第一線にいる方々の警戒に触れることができた。
 学術的な意見を交わし合う同窓を得た。

平成26年(2014)3月に文学研究科修士課程を修了した方の回答
 自らの興味と、授業の内容をクロスオーバーさせることができ良かった。正しいきっかけを与えていただき、自由に思考することができたことに感謝している。
 研究室の雰囲気がよく、ゼミなどで、多様な分野の院生等との対話をし、自らの研究テーマについて考えを深めることができたところ。
 専修以外の分野の講義を受講することが容易で、自らの視野を広げたり幅広い教養を身につけたりすることができたところ。

Q.05 文学部(文学研究科)での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

平成26年(2014)3月に文学部を卒業した方の回答
 3回生以上を対象とした基礎的な知識・技能を身につけるための基礎講座の提供などはもう少し必要かもしれないと感じた。私自身は、特殊講義と演習という荒波にいきなり放り込まれたのがスパルタ教育的でよかったと思っているが、仕事柄中高生と接してきた経験からすると、京都大学に入学するレベルの学生であっても相対的に読書量(ひいては学力)の低下は避けられず、(手取り足取りは京大の自死につながるので問題だが)何らかのフォローはしていけないと、荒波で揉まれるのが避けられない専修への希望者が少なくなりそうな気はする。これが少なくなりすぎると、文学部の存亡にかかわってくる。
 他大学では卒論の書き方について基礎的な部分を講義で教えてもらえるという聞いて羨ましかったです。双方向(受講者と教員、受講者どうし)の授業が少なく、やや物足りないと感じました。
 レポートを出してもどこがどのように評価されたのか分からず、モチベーションが上がりにくかったです。
 学外、専修外との交渉が殆どない。
 他大学、超大学の研究会につてを得る機会が少ない。
 権限を与えられたパソコン台数が少ない。
 ラボラトリーの館内閲覧スペースが狭い。
 英語をもっと本格的に取り入れるべきだと思う。

平成26年(2014)3月に文学研究科修士課程を修了した方の回答
 院ゼミなどで、些細なテーマを扱っている人びとは、気後れを感じていたように思う。全ての学生が大きな問題に向かって研究を進めているのではないので、些細な問題の存在意義も考えていただけたら。

Q.06 振り返ってみて、あなたは文学部(文学研究科)で学べたことに満足していますか。

	学部卒業生	修士課程修了生
十分に満足している。	5 33.3%	1 50%
それなりに満足している。	9 60.0%	1 50%
どちらとも言えない。	0 0.0%	0 0%
あまり満足していない。	1 6.7%	0 0%
満足できず、後悔している。	0 0.0%	0 0%